

23rd 全国曹洞宗青年会

sousei

188
2020.02

特集

How to 寺活

てらかつ

- ・「第42回中国曹洞宗青年会いずも大会」併催
令和元年度「禅文化学林」開催
- ・曹青管区大会
- ・映画『典座—TENZO—』
（東北管区大会・東海管区大会）について
カルタゴ国際映画祭出品&各地上映報告
- ・台風19号被災地状況とボランティア活動報告

過疎だから

こそ

地方寺院の抱える

問題の1つとして

「過疎」があります。

過疎の原因として

- ・産業の衰退
- ・魅力に乏しい
- ・交通などが不便である
- などがあります。

今回の特集では、

過疎に負けない、お寺だ

からこそできる活動「寺

活」をテーマに、3か所

のお寺を取材しました。

寺活とは、新しい布教の

取り組みを指します。

僧侶だけでなく参加者の

視点を大切にし、共に作

る活動です。

始めよう

寺活!!

何か始めたいが、方法が
分からない。

始めたはいいが、予想通
りの結果にならない。

悩みを抱えている方は
必見です。

Case 1

青森県大間町

普賢院
ふげんいん

「1日1組限定」

おおま宿坊

Case 2

佐賀県白石町

弥福寺
みふくじ

「地域を1つに

お寺マルシェ」

Case 3

新潟県南魚沼市

槻岡寺
きこうじ

「水龍さんの縁日」

文／高柳龍哉 松崎清文

CASE-01 青森県 普賢院

青森県大間町
福蔵寺別院 普賢院 院代 菊池雄大師



菊池師が院代を務める普賢院は人口約 5,500 人の青森県大間町にあります。日本屈指のマグロ水揚げ量を誇る町ですが、現在深刻な過疎に直面しています。お檀家様からのお布施だけでは寺院運営が難しい状況でした。

「これからも過疎化は進み、お檀家様はさらに減るだろう」。学生時代からそのような問題意識を持っていた菊池師は、「お布施収入に頼らないお寺づくりをするしかない」と結論を出しました。

菊池師は様々考えたすえ、副住職を務めている福蔵寺の別院である普賢院に注目しました。普賢院は菊池師の祖父が托鉢による寄進で開山したお寺ですが、祖父が遷化してからは廃寺同然となっていました。

「普賢院で何をしようか」。もっともお寺が栄えていたのは江戸時代です。当時のことを調べ、菊池師は自分の考えに合う「宿坊」に取り組むことにしました。

CASE-02 佐賀県 弥福寺

佐賀県白石町
弥福寺 住職 宮島俊京師



宮島師は、お師匠様が病気になったのをきっかけに僧侶の道を歩み始めました。平成 17 年、住職に就任した際の抱負は「自分の理想とするお寺をつくりたい。お寺に来てくれる人の数を増やしたい」ということでした。

もともと弥福寺には梅花講がありました。住職になってすぐに自分も勉強を始めました。梅花講員を増やせば、月に 3、4 回はお寺に来てくれます。増やそうとする努力をするうち、宮島師は「一般の人はお寺に来たり、お坊さんと話すことに敷居の高さを感じているようだ」と気づきました。

そう気づいた宮島師は、お寺を会場としたイベントを数多く催し、お寺と一般の人との垣根を低くする目的で「寺活」に取り組みました。

CASE-03 新潟県 槻岡寺

新潟県南魚沼市
槻岡寺 住職 野口勉悠師



静岡県出身で、お寺とは直接的な縁もない一般家庭から出家した野口師は、独自の視点でお寺を捉えていました。「現状では、お寺は葬式や法事で利用する場所という印象しかない。でも、葬式や法事は斎場やホテルのホールでもできる。その中でお寺の独自性を考えたとき、人々の悩みを聞いて、1 人ひとりの心に寄り添える場所にしたい」。

野口師はお寺への信仰が深かった江戸時代のことを調べました。そして、その時代ではお寺で頻繁に催し物が開かれ、地域でのお寺の存在意義が確立されていたことを見出したのです。

「お寺の価値を見直し、悲しむ場所としてだけでなく、楽しめる場所にしたい。特に若い世代にはお寺は絶対必要な存在だと思ってもらいたい」。そんな想いを抱いた野口師が寺活として始めたのが、「縁日」だったのです。



初冬の参道と本堂



宿坊玄関



食堂入口



ゲストハウス「佛光庵」



ゲストハウス「佛光庵」テラス



大間のマグロを使った晩ご飯

01

旅館業について調べる

当初は知識が何もない状態からの始まりだった。まずは手軽に携帯電話で旅館業について調べた。しかし専門用語ばかりで全く理解できなかった。そこで普賢院の図面を持参し、保健所へ相談に行った。そうしたことで素人にもわかりやすく、明確に教えてもらった。

02

旅館業の認可

保健所から大きな改善点として、2点あげられた。

1点目に5部屋は最低必要ということだった。そのため、普賢院の向かいにある場所に、これまであった境内内のゲストハウス「佛光庵」の他に素泊まりのゲストハウス「自休庵」を建てることで部屋数を解決させた。

2点目は消防法についてだった。規定を満たしていない箇所があったため、専門家の指示に従い、費用をかけて改善した。

保健所には計7回通い、その都度普賢院の改築や整備をし、充分なおもてなしができる状態にした。

03

1日1組限定の宿坊を始めて～改善まで。

2018年4月に開業した。当初は5月には大型連休があり、宿坊という新鮮さだけで、それなりに集客は見込めると思っていた。しかし2カ月間はまったく宿泊客がなかった。そこでホームページ作成、PR動画作成、SNS(特にFacebook)、毎月、地元メディアへの数十通のプレスリリースを実行した。さらに地元の方々の紹介協力や観光情報誌の特集で女性にオススメの宿坊に選ばれたこともあり、認知度は急速に高まった。

04

冬期間の集客について

冬は名所である恐山が閉山することもあるため、観光客が減少してしまうため、船・飛行機で旅行をする外国人(主に函館に観光に来た台湾人)に注目し、企業と提携して宿坊を紹介してもらえるようにした。

05

宿坊の運営

月に10組として、およそ3日に1組泊めるスタイルで運営。その際は必ず1日1組限定とする。こうすることで貸し切りの特別な空間も生まれ、僧侶といつも以上に親身に話ができる環境を整えた。

予約は基本的にLINEでしている。忙しい方々は電話がなかなかつながらないので、手軽に返信出来て、既読もわかるLINEが良い。

06

宿坊での対応

宿泊客には必ず梅湯でおもてなしをする。1日の予定としては、坐禅・作務・写経などがあるが、必ずしも強制ではなく、宿泊客の希望を聞き、柔軟な対応を心掛けている。夕食は大間町のマグロ料理を提供し、自らも一緒に食事を摂る。夕食後は自由時間だが、宿泊客と話をすることが多い。翌朝は、6時半から坐禅をして、精進料理をいただくというのが1日の流れとなる。

取材まとめ

普賢院の宿坊では、以下のことを特に意識している。

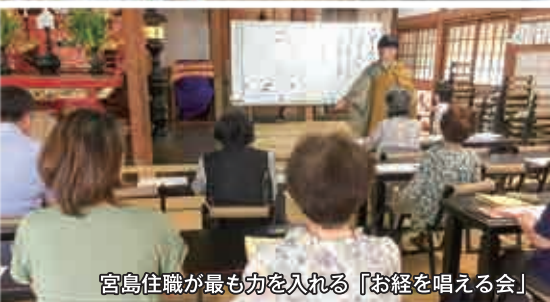
- ・シンプルで静粛な部屋作り(テレビやラジオを置かない)
- ・お寺ならではのおもてなし(梅湯、夜座)
- ・僧侶として参籠者と密な時間を過ごす

曹洞宗の修行や伽藍の作りは、こうした宿坊に適していると語ってくれた。

そんな普賢院には、宿坊を目的に全国から多くの参籠者が訪れている。そのため、大間町の交通機関や温泉施設の利用、お土産の購入などで地域貢献に繋がる。また、参拝者のことを考えたお寺作りから、仏前結婚式や樹木葬の申し込みも増えつつある。菊池師は、一人旅→二人旅→仏前結婚式→家族旅行→樹木葬→そして子供へと、親子二代で訪れてもらえるような、人生のサイクルにお寺が寄り添う事を目指し取り組んでいる。活動を取材するうち、寺活において目標を持つ重要性を感じた。



年に1回の花まつり



宮島住職が最も力を入れる「お経を唱える会」



子ども坐禅会の様子



ベビーマッサージ教室



お寺マルシェのブラスバンド演奏の様子



弥福寺外観
お寺葬を通じて、お寺に愛着を持ってもらいたい

01

婦人会の設立と花まつり

宮島師は平成17年に住職になってすぐ、梅花講の参加者を中心に婦人会を結成した。年に1回、5月8日に婦人会総会と一緒に花まつりを行っている。また、2月にはバス旅行を行っている。様々な仏事や他の寺活の事前清掃等、お寺を支えていただいている。

02

お経を唱える会(仏事と仏教の勉強会)

宮島師はこれを弥福寺で一番大事な行事だと考えている。わかりやすい仏教を目指し、お釈迦様の教えや仏事について説明する。

月に1回、朝の8時半から、参加費は無料で開催している。レジュメを配り、ホワイトボードとプロジェクターを使う。常に7～10人ほどが参加。布教師さんのお説教の内容のおさらいも行っている。

03

子ども坐禅会

年に1回開催し、30～40人の方に参加いただいている。

子どもや若い人(子育て世代)にアプローチするには、町内会や校区PTAの人間関係のつながりが本当に大事と思う。町内会やPTAの回覧板にチラシを入れてもらえ、口コミで他の地域にも情報が行き渡る。

04

ベビーマッサージ

ベビーマッサージの先生(助産師さん)を呼び、弥福寺を会場に月に1、2回開催している。知り合いが「寺子屋 at ease ～ママとベビーの学び舎～」という団体を立ち上げ、宣伝・開催に当たってくれている。

お寺が会場なので、本尊様へのお参りと本堂の掃除をやってもらっている。「子ども坐禅会」と同じく、地域の付き合いが本当に重要と感じる。

05

お寺マルシェ

これまで3回開催し、企画・出店の調整・開催とも主催者に執り行っていただいた。3回目の開催の際は出店数が18軒にものぼり、多くの方がお寺に親しむきっかけになったと思う。

弥福寺からも1軒ブースを出した。近々佐賀県の文化財に指定される予定の阿弥陀如来のご開帳と観音祈祷を行った。

06

お寺葬

近年、弥福寺ではお寺を会場に葬儀を営む「お寺葬」にも取り組んでいる。

効果はとても大きいと感じる。遺族さんはお寺に泊まり葬儀を行うことで愛着がわくし、住職とコミュニケーションをとることもできる。ただし、住職と寺族への負担は大きい。葬儀場のスタッフになったつもりで行わなくてはならない。

取材まとめ

寺活に取り組むことで、お寺に関わってくれる人が増える。弥福寺では「お寺マルシェ」をきっかけに、婦人会の方が月に2回本堂を掃除してくれるようになった。また、本堂へのエアコン設置は、「お寺葬」を始めたことで実現した。寺活をきっかけに、お寺に活気が生まれている。

また、検索をしなければ見つからない SNS は最小限 Facebook のみ活用している。告知の主軸は、婦人会や梅花講の方への声かけや、町内会やPTAの回覧板にチラシを入れてもらう事だ。地域住民との身近な関係に根ざした寺活が行われている。

多くの寺活を一人で企画・準備・開催していく事は難しい。弥福寺のように僧侶でなければ出来ないこと、僧侶でなくても出来ることを考え分担していくことが、長く寺活を続ける上で重要だと感じた。



芸能鑑賞、水龍さんの縁日



地元新聞社へ取り上げられた

水龍さんの縁日



大賑わいの水龍さんの縁日



駐車場が満車、水龍さんの縁日



アート作品の展示、宵間ミュージアム



本堂の外観

01

仲間集め

縁日は主に若い世代を対象としたイベントにしたかった。幅広い分野で活躍する若者を集めた。槻岡寺でお祀りする「水龍神」にちなみ、名称を「水龍さんの縁日」として準備を始めたのは3月だった。

02

出展者募集

知り合いのアンティークショップへお願いしたのをきっかけに、自然と希望者が増えてきた。

お寺に明るい印象を持ってもらうために、面白さや楽しさを感じられる出展者のチラシを作成した。6月に完成したチラシを、様々な業種の川上というべき問屋・食材店を中心に約20店舗ほど配布した。すると40店舗ほどの出展希望が集まった。

店舗・芸能(出し物)が確定してから、8月に縁日告知のチラシを作成した。

03

宣伝・申請書提出

雰囲気伝えられるようにFacebook・Instagramのチラシ作成後すぐに立ち上げ、ポスターも作成し、チラシと共に掲載してもらった。

臨時営業許可申請書を保健所に、駐車場確保のため道路の使用許可申請書を警察署に提出した。宗教法人名よりも団体名・個人名のほうが申請が容易だった。

04

水龍さん縁日開催(1回目)

9月に第1回目を開催した。開催時間は10時~15時までとし、各店舗の搬入は前日から行った。

参拝者は30~40代の子ども連れの主婦が多かった。子どもが踊るダンスといったイベントも催したので、その親戚や高齢者の方々も大変喜んでくれた。縁日の名前にちなみ、水龍さんのご祈祷(祈祷太鼓)も行った。

05

次回開催へ向けて反省

飲食店が圧倒的に人気だった。飲食店を6、7店舗ほど用意していたが、昼前にはすべて完売してしまった。駐車場を80台準備していたが足りず、予想以上に路上駐車が増えてしまった。トイレはこまめな掃除が必要だと感じた。

救急の人が出た場合を想定し備えられるようにしたほうが良い。今回は医療関係者がいた。

06

2回目の水龍さんの縁日開催(翌年9月)

1回目は檀家さんの出店も1店舗のみで、檀家さんの来場も少なかったが、今回は大幅に増えた。

本堂内だけでなく、堂外も利用することで来場者が自由に動けるようになった。前回の反省点をふまえて活動した結果、地方も含めて約1000人の来場者があった。

取材まとめ

筆者の「寺活から仏教の信仰に結び付けていく事はできるだろうか?」との質問に、野口師は「僧侶の努力は必要だが、寺活は決して無駄になることは無い。お寺に来てもらうことで布教の機会が生まれる。伽藍の雰囲気を感じ、僧侶と話をしていく事で信仰に繋がりたい」と語られた。

縁日は、お寺 × 地域 × 檀家の3つを強く結びつけている。お寺が本来持つ魅力を五感に伝えるこの取り組みは、墓終い、仏壇終い、寺離れなど、仏教離れが加速する今日に、お寺の必要性や価値観を高める取り組みとなっている。また、寺活の設備を整えていくことは、お寺での葬儀や会食でも役立つ。縁日という寺活から、新たな発展の可能性を感じた。

「過疎」と向き合う

過疎問題に関する意識調査 ～調査結果報告～

今号では、昨年6月から7月にかけて実施いたしました「過疎問題に関する意識調査」の調査結果をご報告させていただきます。

寺院を取り巻く過疎問題は強い地域性と個性を有する寺院に対する思いや考えの積み重ねが非常に重要になります。たださまざまなご意見のひとつひとつに細やかな分析を加え、第23期の過疎問題事業に活かしていきたいと思っております。この度の「過疎問題に関する意識調査」へのご協力に厚く御礼申し上げます。

【実施概要】

● 調査対象

全国曹洞宗青年会参加者並びに加盟青年会会員（146人）

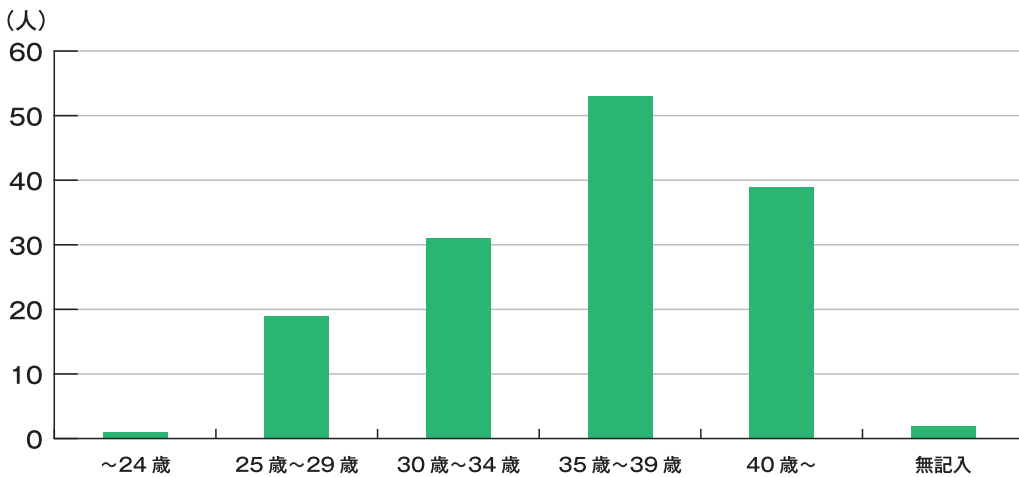
● 調査期間

令和元年6月18日～7月12日

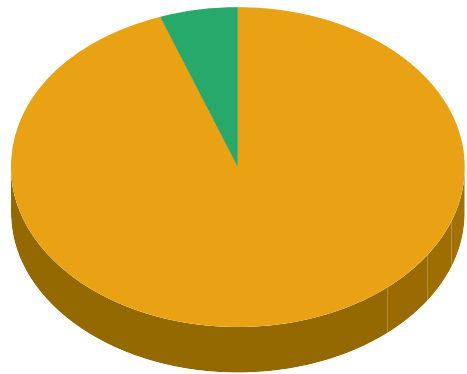
● 調査方法

調査用紙によるアンケート形式

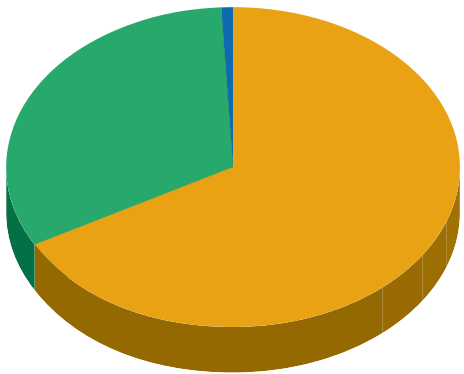
【回答者年齢表】



問1・過疎問題に対して危機感を感じますか



問2・過疎問題によって寺院運営に影響が出ていますか



問3・問2について「はい」とお答えされた方にお聞きします。

● 具体的にどういった影響が出ていますか。また、その影響に対して対策をとられていますか。

|| 影響 ||

- ・檀信徒の減少にともなう法人収入の減少。
- ・檀信徒の後継者が都市部へ転出し故郷に戻らず、そのまま離檀になるケースがある。
- ・高齢化により1人で寺院に参拝できない人が増えている。
- ・檀信徒の減少により、護持会運営が難しくなりつつある。
- ・檀信徒の都市部転出により移動等が増加。それにもない檀務時間が増加。
- ・檀信徒（戸）件数減少による護持会費の1件あたりの負担増加。

|| 対策 ||

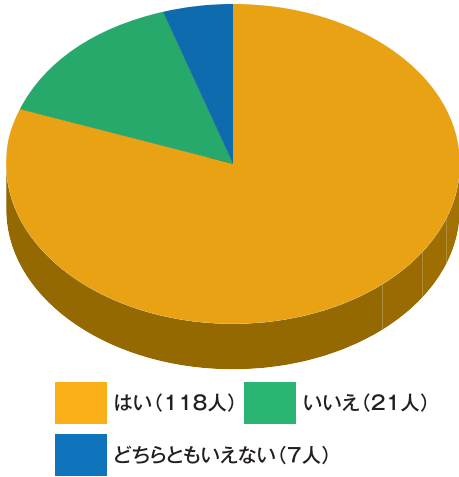
- ・根気よく説明して納得してもらっている。
- ・様々なニーズに対応できる仏事供養の施策を行う。（永代供養塔など）
- ・寺報やSNSを用い、檀信徒との関係性が途切れないようにする。

●寺院運営における過疎対策として、どのような対策・支援を求められますか。

・相談できる窓口を明確にしてほしい。
 ・過疎対策と言っても各々の寺院で課題は違うと思う。よって各々の寺院の課題、現状をしっかりと受け止め、認識してもらい、それに応じた機動的な対策を行ってもらえるようにしていただきたい。
 ・全曹青として、過疎地域を盛り上げるイベントのようなもの。(全国をまわられるもの)

問4・今後、過疎問題の影響による

寺院の合併・解散はやむを得ないと思いますか。



●問4のようにお答えされた理由を教えてください。

==はい==

・もちろん、1カ寺1カ寺には、その土地に古くから根差した慣習、伝統があり、単純な数合わせの為の合併等は根本から違うと存じております。ただ、現実問題として、寺院の何を、そして檀信徒及び地域社会の何をどのような形で継承、存続して未来につなげていくのかを考える上では、合併・解散も含め、あらゆる方策を机上や議論に載せて考えるべきだと思います。
 ・最終的に寺院によって過疎を食い止めることは不可能と思われる。檀信徒の想いを尊重しつつ、合併を進めることは、むしろ理にかなっているのではないかとはいえ、最も優先すべきは「檀信徒の安心」であることは言うまでもないが。
 ・「やむを得ないか？」という問いでありますから、「はい」と回答いたします。当然、手を振って寺院が合併・解散すればいいとは思いませんし、言うつもりもありません。ただ、人口減少などにより寺院としてやっていけない、跡継ぎもないという様な状況がある場合、寺院が合併・解散を選ぶことは、現状としては「やむを得ない」と思います。
 ・安居者も年々減少傾向にあるようなので、住職のなり手もおおのずと少なくなる。廃寺になって信心ある檀信徒が困るようなら、1つの寺院に何名かの僧侶を置き、交代制なりで布教活動を続けていければと思う。
 ・兼務の場合の負担が大きい。

==いいえ==

・歴史のある寺院の合併や解散はさけるべき。
 ・できる限りの対策・活動をすべきだと思います。そのためにも、「やむを得ない」という意識はもたない方がよいと考える。
 ・寺院には由緒(歴史)があり、地域と深い関わりがある。合併・解散することですべてが無くなってしまふような気がする。

==どちらともいえない==

・歴住様と共に寺院を護ってこられた子孫である現檀信徒の方々が如何に考えているのか意見をいただきながら、合併・解散という事項については判断すべきだと私自身は考える。よって檀信徒の方々が

合併・解散を否定されるなら、住職としてはそうならず済む方策を考えていくべきだと思う。
 ・過疎問題というよりは、寺院の後継者不足にともなう住職減少による合併・解散はありえると思う。

今後、研修会などで取り上げてほしいテーマはありますか。

・全国の寺院が行っている行事・イベントを紹介、始め方等を教えてほしい。
 ・寺院におけるSNSと布教について。
 ・寺院運営の近代化と将来像について。
 ・若い方達の寺院に対するイメージ等、意見交換の場などあれば良いのではないかとと思う。
 ・各寺院の魅力を見つめる研修会や、「私はこうして過疎とうまく付き合っています」のような、模範となる成功している寺院に学ぶ講習会。

※紙面の都合上、自由記述に關しましてはご回答の一部をご報告させていただきます。

文／過疎問題担当庶務 堀江 紀宏

中野 孝海

加盟団体 活動レポート

第42回中国曹洞宗青年会いずも大会

併催 令和元年度禅文化学林



令和元年11月18日、鳥根県松江市「ホテル一畑」を会場に、中国曹洞宗青年会連絡協議会主催、いずも曹洞宗青年会主管による「第42回中国曹洞宗青年会いずも大会」併催「令和元年度禅文化学林」が開催され、全国から多くの参加者が来られました。今回は「食」をテーマとして、講師に岩手県正法寺山主盛田正孝老師並びに吉村昇洋師、折橋大貴師、藤井小牧氏の4人の方を



正法寺山主・盛田正孝老師

お招きし、「食べ方」を学ぶことで「生き方」を学ぶことを目的とした講演やパネルディスカッションが行われました。吉村師、折橋師、藤井氏はそれぞれ精進料理教室等を通じてこれまで「食」に関する活動をされてきた方々です。

講演では盛田正孝老師が、ご自身の経験や道元禪師の『典座教訓』、『赴粥飯法』の教えを交えつつ、命の尊さを説かれました。命を支えている「食」とは他の動植物の命をいただく事であり、自然界は基本的に食物連鎖の中で生きています。しかし、人間だけがこの食物連鎖から外れており、他の命をいただくばかりです。だからこそ、人間だけが食べ方を問われており、多くの尊い命をいただいている以上、それに相応しい生き方をしなければならない。その為に



『五観之偈』をテーマとしたパネルディスカッション

修行としての食事、修行に励むことを目的とした食事、「食」を通して禅の生き方を学び、頂いた尊い命に感謝して生きていくことが大切だと語られました。

その後パネルディスカッションでは、吉村昇洋師、折橋大貴師、藤井小牧氏が『食事五観之偈』を題材に一つずつ説き、料理教室やご自身が経営されているお店での経験からくる思いの丈を互いに伝え合っていました。

「食べる」ことと「生きる」ことは一体であることを学び、改めて「食」について考えさせられる内容でした。

文／広報委員 石原顕成



第44回曹洞宗青年会東北地方集會 福島県大会開催

令和元年10月22日。新しい天皇陛下の即位に伴い、国民の祝日となったこの日。福島市内にある「クーラクーリアンテサンパレス」で、「第44回曹洞宗青年会東北地方集會福島県大会」が、関係者各位を招いて厳かに行われました。

式典終了後は会場を福島テルサへと移し、東日本大震災震災遺児達への支援を目的としたチャリティーイベント『生きる』が幕を上げました。当日は悪天候であるにも関わらず、大勢の方々が会場を訪れ、「夜回り先生」こと水谷修先生の講演や、竹原ピストル氏率いる「チェリーボーイズ」の演奏に耳を傾けました。



壇上で講演する「夜回り先生」こと水谷修先生

水谷先生の言葉には、その1つ1つに若い命達と真摯に向き合ってきたという凄みがありました。竹原ピストル氏やチェリーボーイズの演奏には、今を生きているという血のたぎりがありました。会場全体が丸となって熱を帯びるその光景は、まさに「今を生きている」という事を体現していたかのように感じます。

当日会場にお越しいただいた方々に対して、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

文／大会実行委員 中野孝海



フィナーレでの一幕。福島大会の無事円成を祝った。

第43回東海管区 曹洞宗青年会大会



会議室の写真展とお抹茶の接待

令和元年11月30日名古屋市の「日本特殊陶業市民会館」で「第43回東海管区曹洞宗青年会大会」を開催いたしました。今大会は東海管区教化センターの「禅をさく会」と共催し、900人を越える方々にご来場いただきました。

オープニングセレモニー和太鼓集団「鼓司」、講師に喝破道場塾長・野田大燈老師、女優の山田昌氏、タレントの板東英二氏、尺八奏者・工藤煉山氏をお招きし、法あり、音あり、笑いありの時間となりました。

同時刻に会館内の会議室では写真展「禅の四季」と抹茶の接待を実施。この会場も200人を越える方々に来場いただき大盛況となりました。



ギネス世界記録を達成したいす坐禅の様子

目玉の企画として「最大の坐禅レッスン」と題しギネス世界記録に挑戦いたしました。東海管区教化センターの主監・大沼一久師による坐禅指導の下、真剣な様子でいす坐禅の指導を受ける参加者たち。ギネス世界記録公式認定員が見守る中、817人の記録で見事ギネス世界記録を達成いたしました！

参加者には仏教や禅を身近に体験いただける大会となり、大衆教化の接点となればと望んでおります。

こうして大会を成功裡に終えることができたのも、全曹青をはじめ関係各位のご理解・ご協力の賜物とここに改めて感謝申し上げます。

文／大会実行委員長 岡島典文

10月4日に国内で一般公開を開始した映画『典座—TENZO—』。その後も数々の映画祭に出品され、各地でも上映の輪が広がるなど、盛り上がりを見せています。映画『典座—TENZO—』の上映状況をご紹介します！

アラブ圏・アフリカ大陸
最大の映画祭に出品！

10月26日、映画『典座—TENZO—』はアラブ圏・アフリカ大陸最大の映画祭「カルタゴ国際映画祭」の日本映画週間オープニングムービーとして上映されました。開催国であるチュニジアはイスラム教が国教であり、そのような国の映画祭で仏教テーマの映画が上映されることは大変な名誉です。



カルタゴ映画祭のレッドカーペット

フランス最大の日本映画祭に出品！
11月27日には、フランス・パリの日本文化会館で、フランス最大の日本映画祭である「KINOTAYO 現代日本映画祭」が開催され、そのオープニングムービーとして映画『典座—TENZO—』が上映されました。同時にフランス公開も始まり、全土で盛況を得ています。



カルタゴ国際映画祭で



KINOTAYO現代日本映画祭

映画『典座—TENZO—』の
予告篇映像も賞を受賞いたしました！

映画『典座—TENZO—』の製作途中における特報予告篇映像が、鎌倉で開催された「第12回予告篇ZEN映画祭」で予告篇大賞を受賞いたしました。

南直哉老師をお迎えしてゲストトーク

東京、仙台、名古屋、京都、大阪といった各地での上映はもちろんのこと、それに伴って関連イベントも行われています。

11月2日、東北地方初上映となった青森松竹アムゼでは、青森県恐山菩提寺院代・福井県霊泉寺住職の南直哉老師を交えてのゲストトークが行われました。

南老師からは「映画『典座—TENZO—』は、伝統仏教教団の現状、そして僧侶

と社会との関係について深く考えさせる映画だ。映画で描かれる2人の青年僧侶はどちらも自信がない。僧侶とはどうあるべきかについて悩み苦しんでいる。仏教とは苦しくても生きることを示すテクニクだ。そのために問いを立てることが重要。この映画では問いが明確になっていると思う」と、映画についての感想を語っていただきました。

文／広報委員長 田ノ口太悟



映画『典座—TENZO—』
オフィシャルサイト



映画について感想を述べる南直哉老師

第8回つるみ夢ひろばin總持寺 石川素童禪師100回忌御遠忌法要

11月3日・4日、「第8回つるみ夢ひろばin總持寺」「石川素童禪師100回忌御遠忌法要」が開催されました。「つるみ夢ひろば」は地元住民や鶴見大学、大本山總持寺による実行委員が主催し、東日本震災で被災された地域の方に心を寄せ、復興を祈り、絆を深め、開かれた禅苑での交流を大切に、心豊かな社会を築くことを目的に毎年開催されています。

参道や会場内は多くの人で溢れており、東北支援や能登物産展を始め様々な模擬店が並び、全曹青は塗り絵と被災地パネルの展示を行いました。ブース内は終始参加者があり、用意した塗り絵のほとんどが無くなってしまうほどの盛況ぶりでした。年齢層も幅広く、和やかな雰囲気の中、母子

と一緒に取り組んでいる姿も見られました。被災地パネルでは、年配の方が被災地域の様子に熱心に見入っておられました。



つるみ夢ひろば in 總持寺



石川素童禪師100回忌法要では、全曹青からの焼香随喜者を含む多くの僧侶並びに参列者により荘厳な雰囲気の中それぞれに報恩の誠が捧げられました。

地域内外を問わず多くの人の出入りがあり、今や鶴見と様々な地域、人を結びつける結縁の場となっていることを実感いたしました。

文／広報委員 石原顕成



全曹青ブースで塗り絵に取り組む子どもたち

過疎に関するスタディツアー

令和元年11月19日、全曹青主催による「過疎に関するスタディツアー」が開催されました。島根県第二示務所管内5ヶ寺を回り、今後寺院を担う青年僧侶がともに危機意識をもち、現状を自覚することにより当事者として考えていくことを目的とし今回初めて開催されました。

過疎化による地域の人口減少に伴い、檀家の数も減少し、寺院運営もままならないという寺院も少なくありません。対策の一つとして寺院合併がありますが、それぞれの檀家さんから合意を得られなければそこで中止となり、合意を得られても膨大な書類整理により合併が頓挫することもあるそうです。そのほかに、寺報やハガキを送って寺院と檀家さんの結びつきを大切に、檀家さんが帰ってくる故郷として寺院を守っていく事が重要であるなど、それぞれの寺院が抱えている問題や現状、対策をご住職や総代の方からお聞きいたしました。年々深刻化する過疎問題に対しては、地域によってかなりの温度差があります。この温度差を埋める為に今回のような学習の場を設け、宗門全体で危機感を持ち、考え、対応していくべき問題であると実感いたしました。

文／広報委員 石原顕成



原会長の自坊・宗見寺で記念撮影



松音寺の本尊が安置されている地域公会堂で

「ヨガ×坐禅108人限定！ 太陽礼拝108回」開催

12月15日、曹洞宗檀信徒会館で、「ヨガ×坐禅108人限定！ 太陽礼拝108回」が開催されました。ヨガを乃万由美子氏が担当し、河口智賢映画事業実行委員長が坐禅指導を行いました。本イベントはYMCメデイカルトレーナーズスクールと全曹青の共催で毎年催され、今年で3回目を迎えました。

お経が唱えられる中、108回の太陽礼拝ヨガは日常から離れ、生活の中で感じるストレスを忘れて、皆さん夢中になって取り組んでいました。参加者の額から汗が流れYMCメデイカルトレーナーズスクールからプレゼントされたオーガニックコットンタオルが大活躍していました。最後には青年僧侶との記念写真を沢山の方が撮られていました。スタッフ、参加者の垣根がなく全員がONETEAMとなつて行事が終わりました。

文／広報委員 高柳龍哉



国際委員会による日本文化講座

令和元年10月29日から11月1日まで、静岡県光明寺様で「英語で学ぶ日本文化講座」を開催いたしました。講座は全曹青の国際委員会が担当いたしました。マレーシアのVILALIFE協会の依頼により、日本を訪れた18人の観光客の方に向けて催したものです。

講座の内容としては、坐禅・写経・読経・茶道・精進料理などを通じて仏教文化を経験していただき、ひいてはそれらに通底する日本文化についても学んでもらおうとする取り組みです。

第23期国際委員会では、「日本でできる国際交流」をテーマにしております。今年は東京オリンピック・パラリンピックも予定されており、日本を訪れる外国人の方が多くなることが予想されます。これを機会に、在日外国人や訪日外国人観光客を対象に英語で日本の伝統文化や日本の仏教文化を発信する事業を展開する予定です。

文／国際委員長 村上徹信



僧侶の点てたお抹茶をいただくマレーシアの方々

令和元年度第4回執行部会・ 第4回理事会及び研修会・ 臨時評議員会

令和元年11月25日、大本山總持寺を会場に、令和元年度第4回執行部会、第4回理事会が開催され、翌日より開かれる臨時評議員会に向けて、各資料の精査が行われました。

翌26日13時より、大本山總持寺三松閣4階大講堂で臨時評議員会に先駆けて、研修会が行われました。S.Z.I(SOTTO禅インターナショナル)事務局員の大山健治師、W.F.B.Y(世界仏教徒青年連盟)会長の村山博雅師を講師にお招きし、「国際社会に対応する僧侶の英会話」をテーマとした研修を行いました。

15時より拝登諷経、自然災害物故者供養諷経を厳修した後、臨時評議員会が開催され、第23期各委員会の活動中間報告等が承認されました。

文／広報委員 米澤高志



執行部からのごあいさつ

全曹青 Real Voice



監事 長岡俊成

3期ぶりの全曹青ですが、いくつかの事業が継続していることに喜びつつ、映画『典座—TENZO—』のガンヌ映画祭招待、全国上映という大きな進化に驚いております。全曹青のこれまでの歩みの集大成である本映画を契機として全曹青の活動がさらに発展するため、監事としての役目を果たしてまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



監事 丸子道仁

奈良県曹洞宗青年会より参加させていただいております。全曹青との関わりは2011年からと長いのですが、そのほとんどが全日仏青への参加で全曹青内の配役は今回が初めてとなります。今期の取り組みが無事に円成されますことを祈念しつつ、監事として会の潤滑な運営のために、これまでの経験を精一杯活かしてゆく所存です。よろしくお願ひ申し上げます。



事務局次長 内田裕大

三重県曹洞宗青年会から参加しております事務局次長の内田裕大と申します。慣れない仕事をこなすのは大変ですが今しかできない非常に貴重な経験だと思います。前期は庶務として参加しましたのでその経験も活かし協力しながら会務運営を努めたいと思いますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



庶務 川浦良允

愛知県第一曹洞宗青年会より参加いたしました。初めての全曹青での体験は大変貴重なもので、諸先輩方の禅に対する姿勢、熱意、言葉、その全てが私にとって大きな学びであります。

こうした機会をいただけたことに感謝を忘れず、少しでもお役に立てるよう一生懸命務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。



庶務 堀江紀宏

いずも曹洞宗青年会より参加させていただいております堀江紀宏と申します。初めての参加で分からないことも多々ありますが、自分にできることを精一杯動めてまいろうと思います。また数々の全曹青事業を通して、自分自身成長できる2年間にしていきたいと思っております。何卒よろしくお願ひいたします。



庶務 勝田淳玄

第23期全曹青の庶務を仰せつかりました、曹洞宗石川県青年会の勝田淳玄と申します。このような全国規模の組織で活動させていただくのは初めての事ではありますが、今期スローガン『今を創ろう 明日を咲かそう』を胸に、原会長の元で自分の出来る事を精一杯務めさせていただきます。2年間何卒よろしくお願ひいたします。



庶務 中野孝海

曹洞宗福島県青年会より参加しております中野孝海と申します。

今期は庶務を務めさせていただくと共に、各地で問題となっております過疎問題に関する連載記事『「過疎」と向き合う』の執筆も手掛けております。今後この問題に直面するであろう方々の一筋の光となれば幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。



庶務 竹内大崇

曹洞宗福島県青年会より参加させていただいております。前期より引き続き庶務として参加となりました。庶務は円滑に会議が進むよう、準備や些細な気配りが必要な仕事と考えております。会の活動へより良い影響を与えるような風通しの良い会議になるよう努めていければと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



庶務 仲野大悟

熊本県曹洞宗青年会より参加させていただいております。貴重な経験をさせていただける事に感謝し、自己の研鑽に努め全曹青活動を通して成長できるよう精進してまいります。若輩者ではありますが全曹青発展のためたゆまず努力してまいります所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

活動報告 (令和元年12月15日現在)



宮城県丸森町 泥かき活動



長野市 傾聴・子ども支援活動

本年度は九州北部豪雨、台風15号、そして台風19号と甚大な被害をもたらした自然災害が相次ぎました。亡くなられた方のご冥福をお祈りいたしますと共に、被害に遭われました皆様にご心よりお見舞い申し上げます。未だ不自由な生活を強いられている被災地の早期の復興をご祈念申し上げます。

全曹青では、それぞれ災害の発災時より、災害復興支援部を中心に、全国の青年僧侶や加盟曹青会、そして有志のご協力をいただきながら、災害メーリングリストを中心にして被害情報の収集を始めとした災害復興支援活動を行っております。

台風19号ではこれまで経験したことのない広範囲で甚大な被害（災害救助法適用14都県391市区町村）となり、各被災地ではボランティアが足りない状況が12月15日現在でも引き続きしております。地元の曹青会員をはじめ、多数の曹青会が被災地に足を運び活発にボランティア活動を行いました。



宮城県丸森町



宮城県丸森町 養豚場近くの田んぼだった場所にて

台風19号被災地状況とボランティア



ストーブを各家庭にご寄付
いわき市の配給所での配布の様子

長野県内では堤防の決壊などにより、寺院被害も多数ありました。中でも、堤防決壊場所に近い長野市穂保の妙笑寺様の被害が大きく、長野県第一青年会を中心に、他地域の曹青会も支援活動を行いました。

またSVAシャンティ国際ボランティア会と協働し、避難所での傾聴・子ども支援活動を継続して行っております。

福島県いわき市においては、下平窪公民館の配給所をお手伝いされている地元のみ生委員様の要請とご協力を受け、被災宅へ暖房器具をお贈りするため、広く募集をさせていただきました。

その結果、目標を上回る91台もの寄付をいただき、配給所にて、また直接配達によって被災者の皆様へお渡しいたしました。皆様これから迎える本格的な冬を前にして、大変喜んでおられました。

また今年度、全曹青は宗務庁と災害相互協力に関する協約を締結しました。これまで以上に連携、相互協力をしてまいります。また共に宗務庁と協約を締結したシャンティ国際ボランティア会や曹洞宗婦人会とも協力して連携を図ってまいります。

文／副会長 山田俊哉



長野市穂保 妙笑寺様

特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク JVOAD に加盟しました！



特定非営利活動法人
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク

全曹青ではこの度 JVOAD に加盟申請し、12月18日の JVOAD 総会にて加盟が承認されました。JVOAD とは全国的に活動するボランティア団体同士のネットワークです。近年の多発する広範囲な災害に対し、より効率的で迅速に情報を収集することができるようになり、また JVOAD 加盟団体という信用のもと、スムーズに現地支援に入ることができます。全曹青としてより良い災害支援体制の構築を目指します。

賛助費納御芳名簿

2019年9月29日～2019年12月31日取扱い分

◆東京都

126 威徳院 様
173 江岸寺 様
256 妙全院 様

◆神奈川県2

126 常泉寺 様

◆神奈川県

中野東禅様

◆埼玉県2

248 長泉寺 様

◆群馬県

20 竹芳寺 様
194 善宗寺 様
233 明言寺 様

◆栃木県

2 桂林寺 様
167 興福寺 様

◆茨城県

155 乗国寺 様
182 龍心寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
20 福壽院 様
22 廣壽寺 様
29 慶林寺 様
119 森蔵寺 様
194 中瀧寺 様
210 延命寺 様

◆山梨県

265 宝鏡寺 様
281 長生寺 様

◆静岡県1

26 宝珠院 様
34 洞慶院 様
464 正泉寺 様
556 信香院 様

◆静岡県2

228 耕月寺 様
332 龍雲寺 様
362 福泉寺 様

◆静岡県3

634 光明院 様
767 大雲院 様

◆静岡県4

1122 林泉寺 様
1143 金剛寺 様

◆愛知県1

101 成福寺 様
133 瑞泉寺 様
252 慈眼寺 様
341 一心寺 様
625 宝積寺 様

◆愛知県2

684 花井寺 様

◆愛知県3

411 福田寺 様
498 神後院 様

◆岐阜県

60 龍雲寺 様
77 洞泉寺 様
189 久昌寺 様

◆三重県1

15 養泉寺 様
33 宗徳寺 様
37 四天王寺 様
83 涼泉寺 様
144 福源寺 様
203 等観寺 様
246 寶泉院 様
273 禪龍寺 様
276 地藏院 様
284 常安寺 様

◆三重県2

371 光明寺 様
387 瑞岩寺 様

◆滋賀県

113 徳圓寺 様

◆京都府

46 榮春寺 様
236 善光寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

26 天徳寺 様
95 龍尾寺 様

◆奈良県

68 景德寺 様

◆和歌山県

10 窓響寺 様

◆兵庫県1

403 善福寺 様

◆岡山県

3 長川寺 様
131 済渡寺 様
178 成興寺 様

◆広島県

46 双照院 様
58 宗光寺 様
120 寶泉寺 様
152 雲龍寺 様

◆山口県

72 真福寺 様

◆鳥取県

124 願成寺 様
151 安国寺 様

◆島根県1

332 興源寺 様

◆島根県2

32 宗淵寺 様
63 龍覚寺 様
66 浄心寺 様
70 完全寺 様
123 神宮寺 様
141 本願寺 様
161 太林寺 様
187 養善寺 様
195 總光寺 様

◆愛媛県

32 清盛寺 様
34 本光寺 様
113 西禅寺 様
146 興雲寺 様
164 城慶寺 様

◆福岡県

173 長覚寺 様

◆大分県

87 正福寺 様

◆長崎県1

51 祥雲寺 様
78 宝泉寺 様

◆佐賀県

108 光明寺 様

◆熊本県2

88 明徳寺 様
122 國照寺 様

◆宮崎県

59 明星寺 様

◆長野県1

71 苔翁寺 様
179 正福寺 様
364 龍昌院 様
580 観音庵 様

◆長野県2

419 宗徳寺 様
491 龍勝寺 様
512 浄蓮寺 様

◆新潟県1

311 大慈寺 様
354 法音寺 様
358 円光寺 様
393 曹源寺 様
453 龍澤寺 様
496 長樂寺 様
728 妙喜寺 様

◆新潟県3

518 廣徳寺 様
631 浄雲寺 様

◆新潟県4

36 吉祥寺 様
738 不動寺 様
814 地藏院 様
817 日照寺 様

◆福島県

2 長樂寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
156 大龍寺 様
226 常隆寺 様
275 性源寺 様
461 正法寺 様
橋本済一様

◆宮城県

10 瀧澤寺 様
94 秀籠禅齋 様
113 繁昌院 様
212 祥雲寺 様
214 実相寺 様
293 梅溪寺 様
314 満福寺 様
319 大永寺 様
352 安永寺 様
384 大雄寺 様
465 松岩寺 様

◆岩手県

11 天昌寺 様
17 清水寺 様
21 恩流寺 様
101 正法寺 様
111 西泉寺 様
210 常樂寺 様

◆青森県

20 盛雲院 様
44 高澤寺 様
66 大慈寺 様
100 澄月寺 様
103 光昌寺 様
189 乗照寺 様

◆山形県2

250 桃源院 様
320 長泉寺 様
322 洞松寺 様
344 蔵高院 様
380 正円寺 様

◆山形県3

468 宗傳寺 様
734 東光寺 様

◆秋田県

81 蔵立寺 様
165 能持院 様
243 寶藏寺 様
246 福城寺 様
265 倫勝寺 様
321 鏡得寺 様

◆北海道1

78 正林寺 様
96 観音寺 様
510 禅燈寺 様

◆北海道2

181 永祥寺 様
485 良興寺 様

◆北海道

225 明光寺 様

インターネット
受付分

◆青森県

80 法門寺 様

DIGIそうせい『萬燈供養の手引き』・『出班焼香法の手引き』再頒布

皆様からの再頒布の要望にお応えして、『萬燈供養の手引き』と『出班焼香法の手引き』が再頒布される運びとなりました。

『萬燈供養の手引き』

萬燈供養の厳粛かつ荘厳なる雰囲気をご紹介します。萬燈供養になじみのない方にお使いいただけるように、大本山總持寺をはじめ各地で行われている法要の様子をいくつか紹介し、萬燈供養の差定例や解説などが入っております。

※法要は一例です。地域によって差定は異なります。

『出班焼香法の手引き』

出班焼香法(十八拜差定)について、すべての進退を詳しく紹介します。併せて、「本伝供」の様子、包み香の折り方なども映像で収録しました。



●頒布価格 2,000円



●頒布価格 2,000円

同封の全曹青頒布物カタログ・
注文用紙より注文いただけます。

オンラインショップURL
<http://shop.sousei.gr.jp/>



長崎曹青より『参禅要典』頒布のお知らせ

長崎県北曹青会は、平成30年をもって発足50年の節目の年を迎えました。この度、それを記念して『参禅要典』を製作しました。この要典には、本会が毎年秋に開催している「眼蔵会」、恒例の月例会や裁縫会においてお勤めする聖典、偈文を中心に掲載しました。

主な特徴としては、漢字は新字体、送り仮名は現代仮名遣いを使用し、文字を大きく印刷しているため読みやすくなっています。略布薩の頁では、大衆の起立や合掌する箇所を細かく記し、打整の箇所には印をつけ、一連の作法を記載しました。裏頁の聖典は、参禅会等にお勤めする聖典です。公務須知の頁では、本会の眼蔵会の公務を中心に、差定や各配役の作法を掲載しました。

主な掲載内容

大智禪師發願文 摩訶般若波羅蜜多心經 開講式・閉講式回向
僧堂朝課 普勧坐禪儀 食事作法 袈裟把針 法衣十勝利
略布薩 教授戒文 偈文 正法眼蔵坐禪儀 正法眼蔵道心
正法眼蔵生死 正法眼蔵八大人覺 自受用三昧 祇園正儀
發菩提心 公務須知

【お申込み連絡先】

長崎県北曹青会事務局 代表 遙山良道

住所 〒857-0341

長崎県北松浦郡佐々町羽須和免533 東光寺内

TEL 0956-63-2043 FAX 0956-63-5417

MAIL prisdangoxina@gmail.com

【お支払方法】

郵便振込用紙を、お品物に同封させていただきます。



定価：2,000円（税込）*送料は別途

表紙の話

今号掲載の寺活特集では、お寺の新たな可能性に着目しています。そこにちなみ「発見」をテーマに撮影いたしました。

撮影地／広島県尾道市
撮影者／広報副委員長 菅悠生